UN WOMEN JAPAN Yokohama Sub-Committee

国連ウィメン日本協会 よこはま

最終号
2023.11

□■□　「解散」、そして若い世代にエールを！　□■□

会長　増岡啓子

目次

ご挨拶　1
会長：増岡啓子
日本協会顧問：有馬真喜子　2
国連ウィメン日本協会よこはまの歴史と思い出あれこれ　2
スタディーツアー　3
チャリティーコンサート　4−5
国際女性デー　6
ウィメンショップ　7−8
広報部会より　8

コロナ禍を何とかくぐり抜けてきた当会ですが、これまでの経緯をお知らせしておりますように、本年 12 月で解散する運びとなりました。ご厚意を賜った個人・団体の皆さまと会員の皆さまに深く感謝申し上げます。

現在、閉会までの手続きや中間総括、ショップ事業継続と同時に片付け作業を進めつつ、時々振り返り思うことがあります。あるとき、私は大学で教鞭をとる方に「会員の高齢化に加え、学生や現役の方々が忙し過ぎて稼働会員が減っている」とお話ししました。すると、「君はボランティアの語源や海外、日本の若い人たちのお財布事情を知っているの？」と問いかけられました。ボランティアの語源を調べてみると、ラテン語の Voluntas(ウォルンタス)「自発的に行動すること・意志・意欲」とあります。私自身は若い頃から無償で奉仕することがボランティアだと思い様々な場所で参加してきましたが、改めて SNS で次世代の意見を拾い、これまでの価値観を見直すきっかけになりました。

増岡啓子会長

2019 年女性デー「SDGｓってなぁに」

先出の大学では、学生は学業が本分であり、その時間を割いて行っている放課後の子どもたちの学習サポートや各支援団体のアルバイトをボランティア活動の一環として捉え、たとえ有償でもボランティアには違いないと助言しているそうです。今は国内外の大学願書や就活のエントリーシートにボランティア経験を記載する欄がある場合が多く、学生は活動経験の有無の評価対応に追われています。

私たちは 2020 年春から現役世代の会員やご家族の協力を得ながらデジタル化を推進しつつ、コロナ禍の変化に併走できるよう留意してきました。しかし、「就学・就労する多忙な世代が、いかにボランティア活動に関わることができるのか」をもう少し詰めて考え、一歩先に備えるべきではなかったのか。有償ボランティアが当たりまえになりつつあるのは若い世代からの発露であり、価値観の変化と開放の時期に重なっていたのかも知れないとも思うのです。

当会は国連ウィメン日本協会の協力協定団体として「世界の女性と子どものサポート」を基軸に「国際女性デー」「イクメン」「SDGｓ」「女性の働き方」などをテーマに各種イベントを企画し広報してまいりました。地道な活動ではありますが、会の発足から 30 年かけて、弱い立場にあるマイノリティへのエンパワメントのバトンを次世代に繋げることはできたのではと自負しています。そして、柔軟で可能性あふれる若い世代への期待を寄せて、閉会のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

2019 年秋　チャリティーコンサート

前国連ウィメン日本協会理事長　有馬真喜子氏

「国連ウィメンよこはま」解散の一報を聞いたときは、ただただショックでした。あの活発で、誠実で、みんなが頼りにしていた「よこはま」が何故？と思いました。とても寂しかったです。

でも、よく考えてみると「解散」の決断自身「よこはま」の皆様の、考えに考られた結果の、誠実さの表現かもしれない、と感じるようにもなりました。

「よこはま」の皆様とご一緒させていただいたのは1994年からです。1992年 に発足した国連女性開発基金（ユニフェム）日本国内委員会に、横浜が最初の地域委員会を作って下さいました。それからほぼ30年、ご一緒させていただいたことになります。この間に「ユニフェム」は拡大して「国連ウィメン」になりました。

貧困や差別に苦しむ世界の女性達に支援を届けるという、見えるようで、しかしどこか迂遠な活動を、横浜の皆様は身近から具体的に、しっかり足元を固めながら進めて来られました。トークショー、コンサート・・・アイディア豊かで、それを実行する力を持っておられました。ショップの運営という、ハードな仕事にも取り組まれました。

それぞれの方々が、人生のかなりの時間とエネルギーをこの活動に費やされたことでしょう。ご苦労も多かったことと思います。他方、新しい人の繋がりが生まれ、深まり、人生の豊かさを手にされたかも知れません。

皆様が支援された海の向こうでは、確かに誰かが手に職をつけたり、差別と闘う力を手に入れたりしています。

長らく本当にありがとうございました。ご健勝に過ごされることをお祈り申し上げています。そして、引き続き良き友人であることも・・・

思い出あれこれ

ユニフェムよこはまは、よこはまランドマークタワーの一室で開設、以来30年、様々な出来事が次々と浮かんで参ります。 当初はタワー13階の狭い部屋で会議が行われ（18時～21時頃）帰宅は22時頃でした。戸塚に移ってからはショップの開設。試行錯誤をくり返しながら皆様に親しまれる楽しいショップになりました。

活動も年を追うごとに活発になり、楽しいコンサート、講演会、料理教室（世界各国の）、フォーラムまつり参加等で忙しい日々でした。また、海外に目を向けた活動も積極的に行って参りました。ネパール、モンゴル、ラオス・カンボジアへのスタディーツアー、第4回女性会議への参加(中国)、ニューヨーク国連本部での女性会議など。

今後、社会がいい方向に向かって、又、生き生きしたボランティア活動が出来る日が来るのを期待したいと思います。　（西村尚子）

****

1994年1月22日、ユニフェムよこはまの設立総会があり、初代横浜市女性協会理事長の有馬真喜子氏と武者小路公秀氏をお迎えし、記念講演会が開催されました。当時、みなとみらいのランドマークタワー13階にある同協会でアルバイターをしていた私は、同協会の国際部会の方に誘われて、事務局を引き受けたのが、よこはまとのかかわりのスタートです。今の事務所と同じようなリエゾンオフィスで、他のNGOの方と同室で、パソコンならぬワープロで事務処理を一手に引き受けて、なれない会計に四苦八苦していました。

広報部会の仕事の始まりは、その記念講演会ダイジェスト掲載の広報誌でした。ワープロで記事を作成し、印刷室で手作業で印刷し、何とか第1号を作成しました。当初のタイトルデザインは、当時鎌倉市の女性会議で一緒に活動していたデザイナーの方にお願いしましたが、彼女は本当に若くしてがんに侵されて帰らぬ人となりました。入会リーフレット第1号も得意の切り張りで作成しましたが、写真がうまく印刷できずに真っ黒な仕上がりにがっかりしたものです。

また、絵本作家のご厚意で『はなともだち』という素敵な絵葉書を、よこはまのグッズとして広報部会員と作成したのも良い思い出です。　（続く）

1995年の北京女性会議参加が決まり、JTBの担当者とそのための一連の事務作業を担当しました。北京女性会議の開会式そのものへの参加はくじ引きとなり、はずれた私は、開会式の傍聴席に入れるかもしれないと、長蛇の列に、今は亡き会員と手をつないで、じっと待っていたことを今でも思い出します。また、生花の美しい髪飾りを付けたアウン・サン・スー・チー氏の全世界の女性の地位向上を願うビデオメッセージに感動しました。今なお、77歳にして禁固33年という過酷な状態にある氏の胸の内を思うと暗たんたる気持ちになります。

その後、国内委員会の事務局を依頼され、又、よこはまには広報部会員としての参加となりました。その国内委員会事務局も、『5』と『6』も見分けがあやしくなり、70歳で引退しました。

よこはまの事務局発足にあたってTVKの取材を受け、「ユニフェムの社会的認知度をユニセフ並みに」と目標を語りましたが、さて閉会する今、それは達成できたのか忸怩たる思いです。　　（広報部会　髙橋克子）

スタディーツアー

年　度	訪　問　先
1995年	北京女性会議参加
1999年	ネパールスタディーツアー
2002年	モンゴルスタディーツアー
2006年	ニューヨークスタディーツアー
2007年	ラオス・カンボジアスタディーツアー

鮮明に想い出すのは、スタディーツアーで、1995年8月末に開催された北京第4回世界女性会議NGOフォーラムに参加した記憶です。前日招待状が届かなく全員参加できるかガタガタしたこと。当日は晴天に恵まれ、広い会場にシンボル旗（平等・開発・平和）がたなびいていたこと。ワープショップ会場のステージでのパフォーマンス、各自が布に描いて持参した「日本女性の現状」を一人ずつ発表したこと。部屋で「幸せなら手をたたこう」をスキップで踊り、外国の方が自国にも同じ歌があると一緒に踊ったこと。政府間会議日本政府代表の中に有馬様が参加されたこと。姉上（政府事務方）のお供で参加した親友がいたこと。「北京宣言、行動綱領（12の領域）」が採択されたこと等々。

設立から約30年、沢山の活動を通して皆様との絆が深まり、長く続けられたのだと思います。　　（渡邉皓子）

****

入会は発足当初でしたが、諸事情で細く長くの活動になりました。ショップ、イベントで沢山の方と時間を共有でき楽しい時間を過ごしました。中でもネパールへのスタディーツアーは強い印象を今も持っています。時間とともに曖昧になっていく中、鮮明に残っていることが在ります。空港からの目的地まで移動でのバスから目にした光景です。

裸足で、農具でなく木の枝を束ねたもので耕す姿です。とめどもなく涙が流れました。余りにも日本とかけ離れた様子です。これが現実なのだと。今も一枚の絵のように記憶にとどまっています。他にもトイレ事情等沢山の問題がありました。改善された部分もあるようですが、これからも少しずつでも良い方向に進んで欲しいものです。　　（山口共子）

𝄞 チャリティーコンサート ♪

年　度	内　　容		会　場
2002年9月	第1回	「フルートとピアノのデュオの夕べ	イギリス館
2003年4月	第2回	オペラと世界の愛唱歌を歌う	イギリス館
2003年10月	第3回	バイオリンとピアノデュオ	イギリス館
2004年9月	第4回	ピアノとバイオリン～名曲への誘い	イギリス館
2005年4月	第5回	チェロとピアノで春を聴く」	イギリス館
2005年12月	第6回	神奈フィルメンバーによるピアノトリオ	イギリス館
2006年5月	第7回	若きソリストが母の日に贈る	イギリス館
2007年2月	第8回	荘村清志ギターの調べ	アートフォーラムあざみ野
2007年4月	第9回	若きソリストと仲間たち	イギリス館
2008年2月	第10回	オカリナとボーカルのコラボレーション	イギリス館
2008年11月	第11回	新納洋介・牧野真弓ピアノデュオ	かなっくホール
2009年9月	第12回	ドミトリー・フェイギン　チェロとピアノデュオ	アートフォーラムあざみ野
2010年12月	第13回	名器と技量で魅了！ロンドンアンサンブル　Xmasコンサート	かなっくホール
2011年12月	第14回	ロンドンアンサンブル　被災者に捧げるコンサート	かなっくホール
2012年11月	第15回	ふたりのソプラノコンサート ～オペラのアリアと日本の歌曲から～	アートフォーラムあざみ野
2013年11月	第16回	斎藤 龍 ピアノトリオ ～クラシックからビートルズまで	かなっくホール
2014年11月	第17回	タンゴ・デュオ コンサート ～バンドネオンとギターで奏でるタンゴの名曲～	かなっくホール
2015年11月	第18回	バリトン村田孝高が歌う「世界の名曲と日本の美しい歌曲」 ゲスト：池田理代子	かなっくホール
2016年11月	第19回	究極の癒しの楽器 チェレスタで奏でる 森ミドリ 心をつなぐ 温もりのコンサート	かなっくホール
2017年11月	第20回	マリンバ3台による「華麗なる饗宴」	さくらプラザホール
2018年11月	第21回	～オペラとダンス、トークで紡ぐ午後のひととき 心をつなぐコンサート～	さくらプラザホール
2019年11月	第22回	4人の男が奏で魅せるクラシカルスペシャル	さくらプラザホール
2022年11月	第23回	～ビルマン聡平×中山博之 Duo コンサート	Sala MASAKA

第1回

第3回

ユニフェムよこはまから国連ウィメンよこはまへの流れの中での活動としては、チャリティーコンサートが印象に残っている。事業部が主催しての活動だったと思うが、2002年11月に、山手のイギリス館でのサロンコンサートから始まりだったと思う。当時の会員が、イギリス館のスタッフだったことがきっかけで、6年続いた。サロンのため人数制限があり、2007年には総会と合わせて、アートフォーラムあざみ野で「荘村清志ギターコンサート」を開いた。有名な演奏家であったので、チケットは前売り直後に完売した。

この後も毎年、東神奈川の「かなっくホール」や戸塚駅近くの「さくらプラザホール」で開催してきた。2015年は「かなっくホール」で、バリトンの村田孝高氏の歌曲で、ゲストの池田理代子さんとのデュエットには会場から「ブラボー」のかけ声が飛びかう晴れやかなステージとなった。2019年まで、毎年開催していたが、コロナ禍で中断せざるを得ず、2022年東戸塚の「Sala MASAKA」ホールでピアノとバイオリンのコンサートを開いた。

会場では毎回ショップを開いて、日頃来店できない会員との交流の機会にもなって、ショップ部としては演奏にゆっくり耳を傾けることはできなかったが、毎回多くのお客様との出会いを楽しみ、感謝の一日だった。

（ショップ部会　村松弘恵）

第5回

開演を待つ長い列

休憩時のグッズ販売

第8回

第14回

第15回

第16回

第17回

第19回

第21回

第18回

第22回

第20回

第23回

私が入会したのは、夫が定年になり横浜に帰ってきた55歳の秋でした。以来25年とは、まさに光陰矢の如しです。会員は仕事を持つ方々と聞き、地域活動をしていた私とは違い、無駄話をしない大人の女性の会という印象でした。憧れのフォーラムの一角にショップが開店し、未知の国々から多様な品々が並び、お当番をしながら買い物を楽しみました。

私が一番良かったと思うことは、皆でよく話し合い決定し、実行するという点です。チャリティーコンサートや国際女性デーにしろ、さすがに実力十分な仲間でした。常に世界に目を向けていたことも大きな特徴です。

この度コロナ禍や高齢化の影響で、やむなく閉会の運びとなりましたが、私たちは精いっぱい活動を継続してきました。これまでの拠出金も、どこかで少しは必要な少女・女性たちに届けられたと思います。それを良しとして、これからの時代にまた新しい一歩を踏み出していくつもりです。

（広報部会　衛藤栄津子）

◇　国際女性デー ～つながる輪　ひろがる和～　◇

年　度	テーマ　・　主な内容	
2008年 3/4-9	第1回	「私の出会った女性たち国連人口基金親善大使の活動を通して」　講師：有森裕子 「世界の女性と私たち」　講師：有馬真喜子（NPO法人ユニフェム日本国内委員会理事長） 展示・フォトコンテスト
2009年	第2回	「イスラーム社会と文化」　講師：岡田恵美子（日本・イラン文化交流会会長）
2010年	第3回	講談とシンポジウム「DV根絶のために～女と男すてきな関係」　講談師：宝井琴桜
2011年	第4回	「イクメン（育児する男）が社会を変える」　講師：東 浩司（NPO法人ファザーリング・ジャパン理事）
2012年	第5回	被災地からの報告「被災女性のサロン活動」　講師：草野祐子　（みやぎジョネット事務局長）
2013年	第6回	「アフリカの女性たちのエンパワメント 」　講師：勝俣誠（明治学院大学国際学部教授）
2014年	第7回	「飢餓から未来を救え！アジア農村女性たちのチャレンジ」 講師：片上美知子（アジア開発銀行　シニア農業資源マネージメントスペシャリスト）
2015年	第8回	イラン映画「オフサイド・ガールズ」とトーク　～女子力で社会を変える～ 「イスラーム法に基づく社会規範と現状打破のための闘争」　講師：山﨑和美（横浜市立大学准教授）
2016年	第9回	「ラオスの子ども図書館活動から見る女性のエンパワーメント」 講師：安井清子（エッセイスト、ラオス　山の子ども文庫基金代表）
2017年	第10回	災害と女性　～復興から未来を拓く～ 講師:草野祐子（みやぎジョネット代表）・八木純子（女川町コミュニティスペースうみねこ代表）
2018年	第11回	トーク＆手作りファッションショー　～自立への夢をつなぐ～ トーク講師：高垣絵里（ペーパーミラクルズ代表・パキスタン在住）
2019年	第12回	「SDGsってなあに？」 吉本芸人と考えよう 吉本芸人とクロストーク　よしもとクリエイティブ・エージェンシー　ビスケッティ

入会のきっかけは約40年前に横浜市の海外セミナー（2期生：フランス・オランダの女性事情研修）に参加したこと。その繋がりでユニフェムよこはま（旧名）の創立時メンバーとなり現在まで30年、NLの会員紹介に「自分育て・娘育て」と題して入会の目的を書いたのを思い出しています。

講演会やセミナー、北京女性会議・ネパール・モンゴルのスタディツアーに参加して、得るものはとても大きかったが、この30年の中で最も印象深かったのは？と聞かれると、やはり2008年の第1回国際女性デーイベントです。フォーラムあざみ野の事業に応募して50万円の補助金をもらい、「今が見える国際女性デー展～つながる輪・ひろがる和～」と題して6日間のイベントを展開。初めての大きなイベントで、国際女性デーを広めよう、他団体とつながろうと、前年に準備委員会を立ち上げて会員総出で準備・開催をしました。

「各国の女性デー」や「データで見る世界の女性と私たち」などのパネル展、写真展、ベビーキルト展など7種類の展示コーナーを設置。記念講演会は当時国連人口基金親善大使の有森裕子さんと国内委員会の有馬理事長。

決定当時に会長をしていた手前、実施までの大役は重荷でおまけにその間に娘の第1子出産や我が家の引っ越しが重なり、大きな人生の節目がありました。力不足で皆さんに迷惑をおかけしていたと思います。その後、補助金がなくイベントになりましたが、横浜のフォーラム3館を順番に回って2019年まで12回続けました。3月8日が国際女性デー、黄色いミモザが女性デーの花ということが広がり、一番大事なジェンダー平等と女性のエンパワメントに一役かったと自負しています。　（総務部会　竹内美千代）

****

国連ウィメン日本協会よこはまでは、大先輩達に囲まれ、自分自身日々成長できる場となっております。たくさんの経験を積ませていただきましたが、私の一番の思い出は、2021年2月にコロナ禍で開催された、SDGsよこはまCITYサイドイベントに、オンラインにてブース中継を行ったことです。JICAのお部屋をお借りし、ライブで当会の事業紹介をした後、持ち込んだショップの商品をみなさんであれやこれやと説明しました。大変でしたが、とても楽しかった思い出です。

その他にも吉本芸人や、子ども達のダンスチームにご出演いただいた女性デーイベントにもエネルギーをたくさんいただきました。当会での活動は、どれもこれも苦労に勝る達成感を得られました。　（総務部会　松田寿子）

大きく羽ばたく　―　ショップ運営の軌跡

● ユニフェムの立ち上げ

1994年1月22日フォーラム横浜で、当時横浜市女性協会理事長だった有馬真喜子氏の呼びかけに60人の有志が集まり、国連婦人開発基金（ユニフェム）日本国内委員会横浜地域委員会（通称ユニフェムよこはま）を立ち上げました。そしてランドマークタワー13階にあったフォーラム横浜の分室の一角を借りて、活動を始めたのです。その後2003年分室の閉鎖に伴い、ユニフェムよこはまは戸塚のフォーラム横浜へ。現在の事務室をユニフェム日本協会と共用し、そこの棚に品物を並べ販売しました。今日まで続いたショップはこの様に始まったのです。商品はトモ子コットンハウスの牛田智子さん作製の袋物や、ロゴ入りTシャツ、バンダナや、海外に行った会員たちが手荷物で持ち帰った物も並びました。ランドマークでの活動で一番の思い出は、絵ハガキ（はなともだち）を作ったことです。佐伯さんを中心に、西村尚子さんの紹介で絵本の原作者水上悦乃さん、宮地敏子さん、かど創房さんの協力を得て完成しました。

● ウィメンショップ花開く

その後2011年3月横浜市から突然の問い合わせが舞い込みました。館内のレストラン撤退で、空いた場所をフリースペースにするので、一角をショップとして使わないかというものです。不安がありましたがこのチャンスを活かすべく、一大決心をして怒涛の準備作業が始まりました。

仕入れは会員の人脈をフル活用し海外からの手荷物として運んでもらいました。特に大変だった店の管理は、パソコンで全商品の番号付け・仕入れ先・在庫管理・値札作りなどが連動してできるよう、芳賀さんが知り合いにプログラミングを依頼し、不慣れなパソコンを勉強しつつ、山本さん加藤さんが作業を担当しました。店のレイアウトは責任者の西村が知恵を絞りました。店番は当番表を作り会員が交代でしました。売値を決め、値札を作り、商品に添付する。これら全てを会員が一丸となり準備し、わずか1か月半後の5月10日には新装開店することができたのです。会の活動が25周年を迎えた2018年頃には事業も軌道に乗り、ショップはメンバーがいつでも集まれる場として、また来店者へ活動を発信する場として中心的役割を果たすようになりました。

仕入れ先も商品数も飛躍的に増え、海外ではネパールは春日山紀子さん、パキスタンは高垣絵里さん、インドはアンジャリバーリングさん、ケニヤはフェリタスマーカーさん、ラオスは安井清子さんと深瀬初枝さん、マレーシアは今井敬子さん、グアテマラは藤野晴美さんという風に。国内は福祉作業所のまどか工房のクッキーを、他の作業所からは小物類を、その他トモ子さんからは沢山の商品寄付をして頂きました。リトアニアのインナ服部さん制作のアクセサリーは人気商品でした。東京地域委員会からの商品も並び、ケニアの紅茶やモンゴルの岩塩も含め、品目は数百を超えました。いつものことながらメンバーのやり遂げる底力には脱帽です。

●コロナショックと休業

2020年3月にコロナが発生するとその影響は計り知れず、店も計6か月閉店。秋には3時間だけ開店したり、パソコンでカタログ販売のサイトを事務局の杉山さんが作ったりしました。不運は重なり、2022年になると、フォーラムの館内工事で1年間のショップ休業を余儀なくされました。

2023年4月再開したものの今後の見通しも難しく、活動開始から30年という節目となる本年度をもって閉鎖することにしました。

これまで多くの方々に数えきれないほどの援助をいただき、活動を続けられてきたこと、ただただ感謝に堪えません。

最後にご来店下さった皆様には改めて心より御礼申し上げます。

（ショップ部会　西村洋子）

****

前職で経験した女性支援に関わりたいと応募し、国連ウィメン日本協会よこはま事務局員として2012年より11年、会員の皆様に支えられて歩むことができました。様々な活動を通して日本国内だけでなく世界中の女性へと視野が広がりました。女性デー、コンサート、フォーラムまつり、ショップなどで生き生きと活動されていた会員の皆様が私の人生の目標となりました。これからも皆様が活躍されている姿を励みに頑張っていきます。お世話になったすべての方々にお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

（事務局　杉山正子）

広報部会より
ご協力ありがとうございました！

広報部会が担当してきましたニューズレターも今回で最終号となりました。ユニフェム時代の1～49号、国連ウィメンになってからの1～34号を合わせると全部で83回発行したことになります。

当初は、パソコンもなく、印刷も手刷りで、全くの手作りだったという苦労話を先輩方から伺っています。その後、部会員たちもパソコンを駆使して編集、発行部数も増え、印刷もプロにお願いするようになりました。

2011年3月の東日本大震災後は、被災された南三陸町の千葉印刷さんにデータを送り印刷をお願いしていました。印刷工場ごと津波に流され仮の営業をされている所に、会員有志で伺ったことがあります。その折、被災地の被害状況を目にし、大きなショックを受けたことは、今も心に強く残っています。

振り返れば、当会の活動を通じて、いろいろなことに目を向け、いろいろな方と繋がり、勉強させていただいたと思っています。皆様には、ニューズレター作成にあったっても大変お世話になりました。心より感謝いたします。

（広報部会　樽谷文代）

国連ウィメン日本協会よこはま 第34号最終

発　行　日	2023年11月1日
発　　行	国連ウィメン日本協会よこはま
事　務　局	〒244-0816 横浜市戸塚区上倉田町435－1 男女共同参画センター横浜内
TEL・FAX	045-869-6787
E メール	unwomenyokohama@extra.ocn.ne.jp
Webpage	http://www.unwomenyokohama.org/
編集・ﾃﾞｻﾞｲﾝ	広報部会